

議会だより

6月定例会一般質問

6月定例会の一般質問の要旨は、次のとおりです。

(質問順)

■松本喬議員



問①「曾爾高原山灯り復活プロジェクト」の進捗状況について

曾爾村へは、おかげさまで毎年多くの観光客が訪れてくれており、コロナ禍以降は外国人観光客も増えてきているようです。特に曾爾高原は人気が高く多くの人が来られ、村としても受入対応として村道新亀山線改良工事、トイレ改修工事、曾爾村森林公園整備など様々な事業を行っています。

また、受入対応の一環として、村内外から多くの要望があった「曾爾高原山灯り」を3年ぶりに復活させるため、クラウドファン

ディング方式で資金を募るプロジェクトに取り組んでいます。灯籠の老朽化に伴い200基を更新するため600万円を目標に定められています。

そこで、12月19日時点での寄附金額の報告は受けていますが、最終的にいくらく寄附を頂いたのか。また、この事業の進捗状況について伺います。

答弁①(芝田村長)

曾爾高原山灯りは、秋のイベントとして生まれ、観光客誘致にも大きくつながり、皆様のご支援ご協力により今年の秋から復活することとなりました。この復活プロジェクトには、ふるさと納税制度を活用したガバメントクラウドファンディング方式で寄附を募りました。この制度は、自治体が抱える問題解決のために、ふるさと納税寄附金の使い道をより具体的に示し、そのアイデアや想いを共感され応援したい方から寄附金を募るものです。令和6年10月2日から令和7年3月31日までを応募期間とし、目標金額600万円に対し350万2千円の寄附金を頂き、灯籠の制作費等に充てさせて頂きました。寄附を頂きました皆様方に厚く御礼を申し上げます。

なお、寄附金額の詳細並びに事業の進捗状況については、各担当

課長から説明させます。

説明(小西住民生活課長)

寄附金額につきましては、村内の方から16件の55万円、村外の方から41件の135万2千円、そして企業版ふるさと納税の事業者から3件の160万円で、合計60件の350万2千円でありました。

説明(森澤企画課長)

灯籠制作につきましては237万6千円となり、電気配線業務92万4千円と合わせて330万円となりました。寄附金額より抑えられたことに安堵しています。また制作業者のお計らいで、灯籠制作に学童保育の子ども達にも携わって頂くことができました。

今後のスケジュールは、8月中旬から名板の制作をし、9月20日頃から11月24日頃まで曾爾高原山灯りを開催したいと考えています。

■木治正人議員



問②地域集会所改修に係る補助金創設について

村内には、住民の集会の場として公民館分館、大字集落センター及び農業集会所が設置され、老朽化や耐震化による改修工事や維持管理等において公費も投入され運営されている現状です。また、大字内においては、個別集会所(以下「集会所」という。)が設置され地域活動をされている地域もあります。この集会所においては、自己負担による維持管理を余儀なくされています。

本年度の施政方針では、持続可能なむらづくりに邁進すると答弁され、地域の人々が集まり、共通の目的や価値を共有し、互いに助け合う場としての集会所は重要なむらづくりの拠点であると考えています。

そこで、集会所改修費用の捻出のため、曾爾村補助金交付規則に則る助成、あるいは改修補助金の創設を確立し、持続可能なむらづくりを目指すことについて、村長にお伺いします。

答弁②(芝田村長)

各大字の集会所施設は、公民館の分館として長野公民館、小長尾公民館及び太良路公民館が建築され、地域農政特別対策事業で建築された今井集落センターと塩井集落センター、農村基盤総合整備事

業で建築された掛農業集会所、そして新農業構造改善事業で建築された葛集落センターと伊賀見集落センターがあります。また、山粕においては、使用料を頂き旧児童館の一部が利用されています。これらの集会所は、国の各事業の補助金制度を活用され、昭和52年度から昭和62年度に整備されました。各補助事業に沿って設置条例や管理規則が制定され、各大字に管理委譲をしているところです。また、大字内の集会所は、大字伊賀見に2箇所あります。

各大字の集会所及び大字内の集会所の果たす役割は、地域における生活文化の向上や相互扶助機能の強化など、安全で快適な地域づくりの発展及び持続可能な地域運営にとって重要な役割であると思っています。また、各大字では、世帯数の減少や物価高騰の影響により負担が増えていることも承知しています。

各大字の集会所は、耐震工事をしましたが、建築されてから年数が経過し経年劣化していることは承知していますので、今後は、各集会所の設置条例を一本化し、国や県への財政支援を要望しながら、大字内の集会所も含めて補助要綱を定め支援していきたいと考えています。

問 ③2027年問題に係るLED移行に対する助成について
2027年度以降、従来の照明器具

の生産活動が停止するといわれています。今後、カーボンニュートラル実現の一助となるLED照明の導入に対する助成は、住宅管理に大きく影響する事案だと認識しているところです。

今般、令和7年3月5日に村長署名による曾爾村ゼロカーボンシティ宣言について、2050年カーボンニュートラルを目指し、脱炭素社会の実現に向けた取組みを推進していくことを表明されました。

そこで、村内では官公庁・公共施設は公費負担においてLED化改修計画が策定され施工している現状の中、今後一般家庭の改修が余儀なくされると考慮されます。改修費用の助成金あるいは補助金の創設が必ずだと考えますが、村長の所見をお伺いします。

答 ③（芝田村長）
国では、2020年に菅元首相がカーボンニュートラル宣言をされ、地球温暖化推進法の改正や地球温暖化対策計画などに基づき、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにするなどカーボンニュートラルゼロに向けた地球温暖化対策が推進されています。また、全国1,718市町村の内1,161市町村がゼロカーボンシティ宣言がされており、また県内でも39市町村の内7市町村がされています。

曾爾村におきましても、豊かな景

観自然環境を未来に繋いでいくために、村民や事業者の皆さんとともに地球温暖化対策を推進し、ゼロカーボンニュートラルの実現に推進していくことを宣言したところです。

今年度の当初予算では、温暖化対策に向けた地方公共団体実行計画書の区域施策編を策定するための費用を計上しました。今後は、この計画書に基づき、地球脱炭素化推進交付金や脱炭素化推進事業債を活用しながら事業を推進するとともに、一般家庭におけるLED化の推進についても計画書に盛り込み、全国市町村の事例を参考にしながら助成制度を検討してまいりたいと考えています。

■議会傍聴のお知らせ

次回の定例会は9月中頃に開会予定です。

本会議や常任委員会・特別委員会も自由に傍聴できます。傍聴は、議会活動に触れる最も身近な方法でもありますので、議員の活動や村政の方針などを実地に見聞できる議会の傍聴をお勧めします。

傍聴にあたっては、会議当日に議場傍聴席入り口にある傍聴人受付簿に住所・氏名をご記入していただくだけで傍聴していただけます。議程日程等は、ケーブルテレビ等でお知らせします。



旭日単光章受章



7月8日（火）、役場庁舎にて叙勲伝達式（死亡叙勲）が行われました。

このたびの伝達式は本年5月に逝去されました田合佐智夫さんの旭日単光章の受章に対するもので、奥様の勝代さんが来庁し芝田村長から勲章および顕彰状が手渡されました。

田合佐智夫さんは、生前12年の永きにわたり村議会議員として地方自治の発展に貢献されました。特に、高齢者移動支援事業の構築に努めるなど福祉施策の充実にご尽力されました。

ご生前のご功績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。